

美術1 オリエンテーション, 学習を支える資料

	ページ	掲載の意図	活用方法
オリエンテーション	表紙 アンリ・ルソー「夢」 デザインバーコード	○表紙には、「美術科」という新しい教科に触れる生徒にとって想像を膨らませやすい、人物や動物などさまざまな要素の入った作品を選んだ。 ○裏表紙には、教科書P.31～34掲載の「風神雷神図屏風」をもとにデザインされたバーコードを掲載した。バーコードという制約のなかで、縦線を生かしながら印象に残るような工夫がされている。	○表紙を使った鑑賞では、絵の中に何が描かれているのか、どのような場面なのかを想像しながら、自由に物語を考えさせたい。同じルソーの「眠るジプシー女」が掲載されている教科書P.20～21の題材「絵から物語をつむぐ」と関連させて扱ってもよい。 ○デザインバーコードは、何をもとにデザインされたのかを生徒に問いかけ、教科書からそれを探す活動をさせたい。教科書全体を通して鑑賞する機会にもなる。
	P.2～4 うつくしい!	○谷川俊太郎の文「うつくしい!」では、日常生活や美術の学習の中で、自分なりの美しさを見つけたり感じたりすることの大切さを感じ取らせたい。 ○中学生が撮影した写真には、どのようなところに心ひかれたかをまとめた文章を、直筆で添えた。他者が感じた美しさに触れ、自分にとっての「うつくしい」を探さきっかけにしたい。	○生徒の文章には、どのようなところに心ひかれたか、どこに美しさを感じたかが書かれている。それらを参考に「美術科」の導入として、身の回りから自分なりの美しさを見つけたり、実際に写真を撮ったりさせたい。 ○生徒作品の写真は形、色、光という〔共通事項〕の観点から解説できるものを掲載している。授業内容に応じて、造形的な視点に気づかせる際に活用してもよい。
	P.6～7 美術って何だろう?	○中学校に入学し、初めて「美術科」に出会う生徒に向けたオリエンテーションのページである。小学校で学んだ「図画工作科」とのつながりや、「美術科」で大切にしてほしいことなどを、問いかけの形式で掲載した。教科書P.8～9とあわせて、学年の初期の授業で紹介してもらいたい。	○P.7の作風の異なる3点の作品を鑑賞させて、それぞれのよさを話し合わせてもよい。写実的に描かなければならないと思っている生徒に対して、表現方法はさまざまであり、それぞれによさがあることを感じ取らせたい。 ○ジャコメッティの彫刻作品は、なぜこのように表現したのか、想像を膨らませることができる作品だ。それぞれの感じたことや考えたことを話し合わせたい。
	P.8～9 美術で学ぶこと	○教科書P.6～7同様、オリエンテーションのページとして、中学校3年間を通して美術で学ぶことや、教科書の使い方、ノートやスケッチブックの活用について紹介した。美術での活動や学習に見通しを立て、これから学ぶ美術に期待を膨らませてもらいたい。	○授業や日常の記録のため、ノートやスケッチブックを活用することを提案した。気になったものをスクラップしたり、思い浮かんだアイデアを書き留めたりできる。アイデアスケッチや試し描きなど、作品づくりの過程を記録しておく、振り返りながら制作を進められる。初めは日常の中で美しいと感じたものをスクラップする活動などをさせるのもよいだろう。
	P.38～39 デザインって何だろう?	○私たちは日常のあらゆる場面で、デザインされたものを見たり使ったりしている。そのことを生徒たちに実感的に理解してもらうため、中学生の1日を例にとり、身近に感じられるデザインの例を掲載した。 ○デザインが自分たちの生活に溶け込んでいることに気づかせて、自ら制作するデザインの題材にも意欲的に取り組ませたい。	○掲載作品や製品の工夫点を読み取るだけでなく、教科書を参考に、自分の1日を振り返り、デザインされたものを挙げさせたり、自分のお気に入りの製品などを発表させたりしてもよい。何気なく目にしていたデザインの工夫点などを改めて考えさせることで、装飾する・伝える・使うなど、それぞれのデザインの役割についても気づかせたい。
学習を支える資料	P.58～59 【描くための材料と用具】 どれで描く? どれで塗る?	○描きたいイメージによって、選ぶべき材料や用具は異なってくる。そのことを生徒が感覚的に理解できるよう、同じモチーフを異なる描画材で描き、掲載した。 ○同じ描画材でも描き方を変えることで幅広い表現ができる。それぞれの描画材の特徴を知り、表現に生かしてもらいたい。	○描く活動の際には、描画材はなるべく生徒自身に選ばせるようにしたい。このページを活用し、自分の描きたいイメージに近い描画材を探させたい。 ○アクリル絵の具は中学校で初めて使う生徒もいる。使い方の注意なども教科書を活用して指導したい。
	P.60～61 【描くための材料と用具】 描いてみよう	○形や光の捉え方、水彩絵の具の混色のしかたなど、描く際の基礎的な技法を掲載した。形の構造や光の方向など、対象を観察する際の観点も載せている。	○生徒が自分のイメージ通りにあらわすために、描き方を知っておくことは大切である。描く活動では適宜参照させたい。 ○「絵の具を使うための準備」は、すでに小学校で学習していることだが、学習状況の違いなどにも配慮して、教科書を活用して確認させておきたい。

	ページ	掲載の意図	活用方法
学習を支える資料	P.62～63 【描くための材料と用具】 さまざまな描き方	○主に絵の具を活用したモダンテクニックの技法を紹介した。単純に筆で塗る以外にもさまざまな描き方があることを知り、自らの表現の可能性や、作品を鑑賞する際の見方や感じ方を広げてもらいたい。 ○絵本作家であるエリック・カールの作品や手法からは、描くことの自由さや表現の豊かさを感じ取ってもらいたい。	○モダンテクニックの技法は、さまざまな場面で活用できる。すでに小学校で学習している生徒も多いが、このページではさまざまな技法を一覧で見ることができるので、自分の表現に必要な技法を見つけだす手立てとして活用させたい。
	P.64～65 【描くための材料と用具】 版画の楽しみ	○版画の種類や特徴のほか、彫刻刀の使い方、木版画の制作過程などを掲載した。版画の表現題材ではもちろん、教科書P.18～19「版であらわす美しさ」など、版画の作品を鑑賞する際も活用してもらいたい。	○スチレンボード版画や木版画など凸版の版画を経験したことのある生徒は多いが、凹版の銅版画や孔版のシルクスクリーンを知っている生徒は少ないことが予想される。刷られる原理や特徴などを解説し、それぞれの版画技法の理解を深めさせたい。 ○彫刻刀を使う際の安全面の注意は、教科書を活用して丁寧に指導したい。
	P.66～67 【生活の中の文字】 文字をデザインする	○書体の種類や特徴、レタリングの手順などのほか、生活の中の文字についても掲載した。文字は、看板やポスターなど、日常生活のさまざまな場面で見かけるが、いずれもデザイン的な工夫が凝らされている。文字に関する知識・技能を身につけるだけでなく、生活とデザインとの関わりを感じ取ってもらいたい。	○書体は日本語にもアルファベットにも多くの種類があり、それぞれ印象も異なる。書体による印象の違いを考えさせることで、ポスターやパッケージなどのデザイン題材において、表現にあった書体を選択させたい。 ○書体デザイナーについて学習させることで、印刷された文字はデザインされたものであり、それがどんな発想からできているか考えさせたい。
	P.68～69 【つくるための材料と用具】 紙でつくる	○紙は、入手しやすく加工しやすい材料であり、さまざまな題材で活用できる。ここでは、その種類と特徴、さまざまな加工方法を掲載した。	○紙は生徒にとって非常に身近な材料だ。新聞紙や段ボール、画用紙などの実物に触れながら、それぞれの紙の特徴を感じ取らせたり、教科書に掲載された方法以外にどのような加工ができるかを生徒に考えさせたりしてもよい。
	P.70～71 【つくるための材料と用具】 粘土でつくる	○彫刻や焼き物など、粘土はさまざまな題材で活用できる。そうした粘土の種類や特徴、焼き物づくりの基礎的な工程を掲載した。	○粘土の種類や特徴を理解させ、表現したいものにあった材料を選択させたい。 ○紙面の写真だけでなく、二次元コードにリンクした動画も参照しながら、必要に応じて教科書の各題材と関連させて指導に活用したい。
	P.72～73 【つくるための材料と用具】 木でつくる	○木は、版画や彫刻作品、工芸品などの表現で用いられる材料である。ここでは、木の種類と特徴、加工のしかたなどの基礎的な資料を掲載した。	○木を加工する際には、手順や用具の使い方などをしっかり指導して、安全に作業できるように配慮する必要がある。必要に応じて教科書の各題材と関連させ、教科書紙面や二次元コードにリンクした動画などを活用し、丁寧に指導したい。
	P.74～75 【形と色】 形の世界を知ろう	○〔共通事項〕で重視される形の学習に関して、身の回りの形に関心を向けたり、形の構成による効果を学んだりできるよう、形に関する基礎的な資料を掲載した。	○教科書のコラム「自然が教えてくれるもの」を参照させて、身の回りの自然物から法則性のあるものを見つけさせて、形の美しさや機能について考えさせたい。 ○構図や遠近法については、風景を描く題材などで適宜活用させたい。
	P.76～78 【形と色】 色や光の特徴を知ろう	○〔共通事項〕で重視される色と光の学習に関して、色の仕組みや、色の印象や効果、光によるもの見え方の違いなど、色と光に関する基礎的な資料を掲載した。	○表現中心、鑑賞中心いずれの題材でも活用してもらいたい。なお、色覚特性の有無にかかわらず、色の感じ方や見え方は生徒によってさまざまである。指導の際は十分に配慮する必要がある。
	P.79 美術館を楽しもう	○生徒には、実際に美術館を訪れて実物の作品を鑑賞し、細部の描写や本物の迫力を肌で感じてもらいたい。このページでは、美術館の役割だけでなく、いろいろな楽しみ方を紹介した。作品を鑑賞するだけではないさまざまな過ごし方を知り、美術館に足を運ぶきっかけをつくりたい。	○美術館を活用した授業の前や後に、ただ作品を展示しているだけでない、美術館のさまざまな機能や楽しみ方を考えさせたい。 ○展覧会の鑑賞レポートに取り組ませてもよい。体験の記録を残すことができることともに、情報を伝達するデザインの学習にもなる。
	P.80～81 美術鑑賞を楽しむ 手がかり	○美術作品を、どのように鑑賞すればよいのかかわからないという生徒は多い。ここでは、そうした生徒の手がかりとなるよう、鑑賞の流れの一例を紹介した。また、鑑賞の活動の手助けとなるよう、印象や気持ちをあらわす言葉や、美術でよく使われる言葉を掲載した。	○フェルメールの「地理学者」は描かれている人物や場面など、さまざまに想像を膨らませることのできる作品である。教科書P.80の流れを参考にしながら鑑賞させたい。また「美術鑑賞を広げる言葉」を参照し、言葉を知ることにより鑑賞が深まることも感じ取らせたい。